

『あそびのタネ通信』VOL. 45 お届けします。  
最後までどうぞ、お付き合いください。

---

## ■ INDEX ■

---

- (1) シンポジウムの報告
  - (2) 認証者交流会の報告
  - (3) こども支援士 更新手続きについて
- 

### ◆ (1) シンポジウムの報告 ◆

---

#### 平成 30 年度教育支援人材認証協会シンポジウム報告

運営委員長 鈴木聡

去る 10 月 20 日 (土) に、平成 30 年度教育支援人材認証協会シンポジウムが東京学芸大学において開催されました。参加者は少なかったものの、教育支援の今までとこれからについてじっくりと語り合える会になりました。

今回のシンポジウムは、「教育支援人材の今までとこれから」と題しました。趣旨は、本協会設立 10 年目を迎え、教育支援人材認証協会のこれまでを振り返り、今後の展望を描く会としました。まず、運営委員長の鈴木聡 (東京学芸大学、筆者) より、本協会のこの 10 年間のあゆみを紹介しました。ここでは、「教育支援人材認証協会の経緯」「現在までの活動状況」そして、「今後の戦略と方向性」の 3 視点から報告しました。本協会の目的である「教育支援人材の認証を行い、地域に根ざした教育支援人材

の育成、活用及び普及を図り、我が国の教育基盤の強化に貢献すること」を再度確認し、その理念実現のための組織や広報活動、会員校の推移や認証者数の変遷をお伝えしました。加えて 10 年間の活動実績として、「認証制度の確立と講座の充実」「認証者の活躍の様子」「企業 CSR との連携」「各会員大学での活動」についても言及しました。

続いて、「教育支援人材育成のこれまでとこれから」と題したパネルディスカッションを行いました。はじめに、NPO 法人三鷹ネットワーク大学推進機構事務局の小山田佳代さんに登壇いただきました。小山田さんには、長年本協会にご尽力いただいた立場に加え、市民として教育支援活動を以前からされていたご経験を加味しながらお話しいただきました。小山田さんはこの事業が開始される当初から関わられていました。大学の知を地域へつなげる架け橋となることを目指すきっかけは、ご自身が子育て時代に聞いておきたかった、知っておきたかったという切実な思いに基づいているとのことでした。実際に認証講座を運営する活動の中で、受講者の方の「子どもとの関わり方で悩んでいたことが解決できた」「自分のやっていたことが正しかったと認識できて自信が持てた」という声を聞くことで手応えを感じられたそうです。また、「認証を取った後、どのように活動の場を広げていくのか」という問いに対して、これからは勝負の時期と小山田さんは語ります。外部ネットワークと連携することや認証者同士のネットワークを創りつなげるコーディネーターの育成も主張されました。さらには、「日本子ども支援学会」「日本教育支援協働学会」のような学会組織との連携研究も視野に入れていくことが必要だと述べられました。

続いて白梅学園短期大学教授瀧口優先生には、設立当初から関わってくださっているお立場から、教育支援人材育成の価値をお話しいただきつつ、白梅学園短期大学での取り組みについて紹介いただきました。瀧口先生は、本協会設立当初より運営委員として尽力されました。また、ご勤務される大学では、授業において「こどもパートナー」「こどもサポーター（子育て支援）」「こどもサポーター（外国語活動）」を実施されています。また、2013年からは「こどもサポーター（こころ支援）」を一般向けに開催されています。特に、「こどもサポーター（こころ支援）」では不登校や引きこもりをテーマにしていますが、毎年50人定員をほぼ満たしているとのこと。こうした取り組みは、地域の人材発掘においても効果があるとのことでした。学生への講座開講は、小学校、幼稚園、保育園に就職していく際に直接効果があることや、在学中の学生の方々が教育支援人材として教育現場にボランティア活動として参加することを通して地域における世代間交流が実現している姿が報告されました。また、瀧口先生からは設立されて間もない「子ども支援学会」の活発な活動の様子をお話しいただき、本協会との連携の重要性を述べられました。実践を踏まえた研究分野の発展は、私たちの取り組みをより広め確かなものにしていく上で大切な視点であると思われまます。

パネラーのラストバッター、東京学芸大学准教授小森伸一先生には、事務局長の立場から、協会が委託された事業である「青少年体験活動奨励制度」の成果と今後の展望を中心にお話しいただきました。この事業は、平成25年度より5年間にわたり展開してきました。体験活動に対して文部科学省からアワードが授与される制度設計に加え、「体験活動推進プロジェクト 青少年の体験活動の評価・顕彰制度に関する調査研究」の内容も報告いただきました。体験豊富な子どもたちは「机の周りを整頓する」「計画的に勉強する」「友だちとの約束を守る」、そして「自己肯定感が高い」といった興味深い調査結果にも言及いただきました。自然体験豊富な子どもは、「生活経験」「ボランティア体験」「教養体験」も多く、まさに、「生きる力」「生き抜く力を促進できる」といえます。本事業は昨年度でひとくくりを迎えましたが、現在青少年体験活動奨励制度ワーキンググループを立ち上げ、今度の継続の道を探っていることが報告されました。

シンポジウム後半は、参加してくださった方々と登壇者が2グループに分かれてディスカッションを行いました。どちらのグループとも議論が盛り上がり、参加者の皆さんの地域の実態や教育支援の現状が語られました。挨拶が少ないこと、隣人の顔を知らない現実、子どもたちに声をかけられない実態という課題に加え、関わることで人と人がつながっていく実感も紹介されました。地域で実践したことを報告し合える場があるといい、情報交換がしたい、横のつながりをつくっていききたいというリクエストも出され、実に多岐に渡る意見や視点が出されました。「今こそ教育支援人材が必要である」という見方もできることがディスカッションを通して伝わりました。

今回のシンポジウムを通して、今までの10年間の歩みが確かめられたと感じています。発足当時の理念を再度確認しながら現代のニーズを問い直し、この協会はこれからもしっかりと進んでいかねばならないことを強く感じました。具体的な方策としては、呼びかけをしながら会員校における認証講座数を増やしていくこと、会員校周辺の教育活動機関との連携を試みたり強化したりすること、通常の活動についての宣伝活動を広く行っていき、認証者や会員校への情報提供とコミュニケーション活性化を推進していくこと等が挙げられます。また、話題として挙げた「こども支援学会」及び「日本教育支援協働学会」との連携についてもしっかりと計画していくべきと考えます。

シンポジウムの最後には、本協会の柱を築かれた深谷昌志先生にまとめのご挨拶をいただきました。深谷先生はこの10年の歩みを振り返りつつその成果と課題を語ってくださいました。深谷先生が、「この協会の名称は『教育支援人材認証』であったが、もしかすると『子ども支援人材認証』の方がよかったのかもしれない」というお話は、参加者の皆さんの心に強く響いたと思われまます。支援すべきは教育制度なのかと問われると、やはり「子ども」の支援なのだと思います。本協会の使命は、「子どもを支援する人材」を育成し認証することにあり続けるのだろう、と私は思います。

ネクスト10をどのように描いていくのか、今回のシンポジウムを基にみなさんと考え続けていこうと思います。

---

◆ (2) 認証者交流会の報告 ◆

---

【札幌大学こどもパートナー講座認証者 第7回交流会】

「～ボランティア体験 風船で遊ぼう!～」

10月10日(水)西岡児童会館で、「一般社団法人 教育支援人材認証協会」認証講座「こどもパートナー講座」の認証者を対象に「こどもパートナー講座認証者交流会～ボランティア体験 風船で遊ぼう!～」を実施しました。

参加した認証者1人と地域ボランティア6人は、西岡児童会館を利用する約40人の小学生へ色とりどりの風船で「剣」と「ジャンピングねずみ」の作り方を一人ずつ丁寧に教え一緒に作りました。また、出来上がった剣とねずみで小学生とおもいきり遊びました。参加者と地域の方は小学生への放課後サポートボランティアを通して楽しく異世代でのボランティア交流を体験することができました。

「こどもたちの元気な姿がみられて、とても楽しかったです。風船遊びをあんなに楽しげに遊んでいる姿から、児童会館での遊びをこどもたちが楽しみにしていることが、良くわかりました!」との感想が寄せられています。

\*原文には当日の交流会の楽しそうな写真が貼付されておりましたが、配信時の都合により省略させて頂きました。申し訳ありません。

---

◆ (3) こども支援士 更新手続きについて ◆

---

【こども支援士認証 更新について】

本年度の更新対象(有効期限:2018年3月31日および2018年9月30日)の皆様の新更新手続きは終了しました。更新をして下さったこども支援士の皆様、ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願い致します。

なお、有効期限が2019年3月31日の皆様には、年内にはお知らせをお送りしますので、しばらくお待ちください。

---

一般社団法人 教育支援人材認証協会 事務局  
東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学内  
TEL&FAX : 042 - 329 - 7605  
E-mail : info@jactes.or.jp  
URL : www.jactes.or.jp  
Facebook : <https://www.facebook.com/jactes>

---